

白トリュフの発生状況と経過観察

岡田英士 (兵庫県立姫路飾西高等学校)

はじめに

私がきのこを調査しているH市A町(仮称)付近も、徐々に山や野原など自然が開発によって破壊されつつあります。自然が壊されることによって今では、猪も里山近くや畑に出没して回りを荒らして行きます。そういう環境の中で偶然発見したのが白トリュフでした。

どうしてこの種を選んだかという、私が今回調査した白トリュフの近縁種の秋から冬の時期に発生し、観察しやすく、発生している期間が長いからです。今回はこの一種のみに着目し、各月の降水量と気温とを比較してどのような関係があるのかを調査しまとめました。

調査方法

2016年10月～2017年1月にかけて月3回ほどのペースで発生場所に行き、白トリュフの個体数と、どのくらいの範囲で発生しているかを調べた。加えて期間内の降水量、気温と発生量を比較した。また保護のため採集は極力控えた。

結果

11月が発生のピークで12月～1月にかけては老成した個体(図(1))や成長が止まった個体(図(2))が多く見られた。



(図(1))

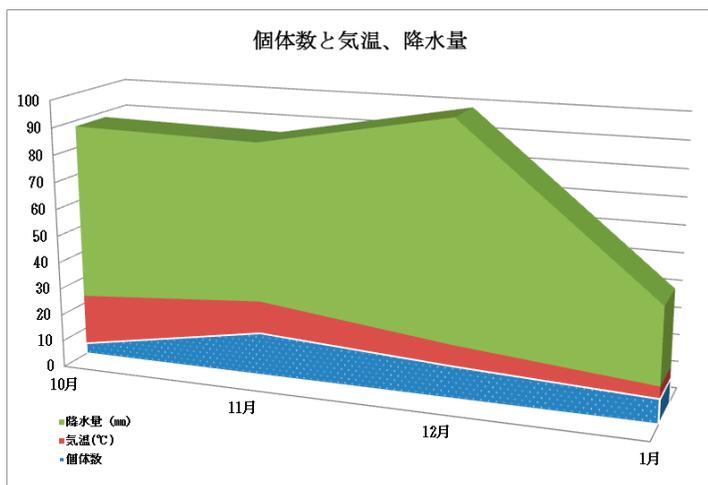


(図(2))

考察

(図(1))、(図(2)) を見てわかることは、11月が発生のピークとなっていることが分る。11月以降の個体は、古い個体や老成したものが多いことを考えると、11月がピークで発生のきっかけは、降水量が減少したことによる刺激ということが考えられた。

月	10月	11月	12月	1月
個体数	4	16	12	9
月	10月	11月	12月	1月
気温(℃)	18.9	12.1	7.8	4.4
降水量(mm)	65	58.5	80	28



月別(個体数、気温、降水量)比較表

まとめ

今回の調査では、一種だけに注目して調べましたが4カ月という短い期間と思えないほど色々なことが分って興味深かった。また、今回の調査は、今年が第1回なのでこれからも調査を続けて更に詳しく調べたいと思います。

最後に、今回のレポートを書くにあたって助言を下さいました、きのこグループの平山吉澄先生に、この場をお借りして感謝を申し上げます。